

参考資料.3 工学機器による支持体や地塗り層の調査資料

工学機器による支持体や地塗り層の調査資料は幕末に比して豊富である。ただ、それぞれの資料が重複錯綜して、これまでその資料の全体を把握することは難しかった。

そこで、まず東京藝術大学所蔵資料を中心とした画家の資料と、高橋由一の資料とに分けた。高橋由一の資料は、単独の画家として資料が最も充実している。そして、各引用文献の引用内容を一覧表にして、資料が重複するものは併記しまとめた。未調査等により資料がないところは空欄とした。また、支持体がキャンバスによらない場合、織種、経緯数は空欄とした。地塗り層がない場合、成分分析を空欄とした。制作年で不明とあるものはそのまま記した。また、本考察は、明治 27 年頃までとしているが、引用文献に記載してある資料はそれ以降のものもすべて記した。

引用文献は、以下のものを用いた。

1. 坂本一道 著作権代表者、『明治前期油画基礎資料集成 東京藝術大学収蔵作品 研究篇』、1991。
2. 歌田眞介 著作権代表者、『高橋由一油画の研究 明治前期油画史料集成』、1994。
3. 神庭信幸、「初期洋画の技術的変遷(I)―明治初期油彩画の下地組成―」、国立歴史民俗博物館研究報告(19集)、pp.357-391、1989。
4. 神庭信幸、佐藤時幸、「明治初期油彩画の下地から見付かった石灰質ナンノプランクトン化石」、古文化財の科学(34)、pp.467-51、1989。
5. 歌田眞介他 11名、『油画を読む』、東京藝術大学美術館協力会、2001。

各引用文献の作品番号を資料出典として、それぞれ以下の番号及び M,T,S,Y を頭につけた番号で記した。

1. Mのある番号は『明治前期油画基礎資料集成 東京藝術大学収蔵作品 研究篇』による。
2. Tのある番号は『高橋由一油画の研究 明治前期油画史料集成』による。
3. Sのある番号は「初期洋画の技術的変遷(I)―明治初期油彩画の下地組成―」による。
4. Yのある番号は『油画を読む』による。

作品全体の通し番号を作品番号とした。一覧表の項目の内、説明の必要なものには、成分分析、層数、織種、経緯数(経、緯)、媒剤の推定、特記事項(素材、制作地等)があるので、それらの項目について説明する

まず、成分分析について述べる。これは地塗り層の顔料の分析である。E-J 及び F-I は神庭信幸氏が名づけられた。E-J はイギリス・日本型の略。これは、炭酸カルシウムと鉛白が主成分である。全体的には炭酸カルシウムが主であるが、配合比は次第に変わりながら 1~3 層構造となっている。その配合比は下層ほど炭酸カルシウムが多く、上層に行くに従って鉛白が高くなるという。また、炭酸カルシウムの層中に中世代白亜紀に堆積したと考えられる石灰質ナ

ンノプランクトン(Nannoplankton)の化石が見られることから、ヨーロッパ白亜紀の地層から産出した白亜である可能性が高い。なお、日本の地層では白亜の産出は多くないので、ヨーロッパからの輸入の論拠とされる。F-I はフランス・イタリア型の略。これは、鉛白に少量の炭酸カルシウムが加わり、1 から 2 層の構成となっている。ただし、鉛白と炭酸カルシウムの配合比は各層で同じである。こちらからは化石は検出されない。一方、宮田順一氏はイギリス・日本型を、19 W&N 型と呼んでおられる。これは、19 世紀ウインザー&ニュートン(Winsor & Newton)型のことである。ウインザー&ニュートン製の印のあるキャンバス(作品番号 133)がそのような特徴を示していたことによる。鉛白と白亜が主成分であり、多層塗りで、上層ほど鉛白が多く下層ほど白亜が多い。他にバライト、ケイ酸塩化合物を少量含む。鉄とケイ素を含む赤色顔料も少量含む。天然白亜が含む化石を確認している。神庭氏、宮田氏それぞれの検査資料を併記したが、矛盾は無い。19W&N 類似は、赤色顔料が確認できない以外は、19W&N と成分は同じである。フランス・イタリア型を宮田氏は鉛白主成分と分類されている。亜鉛華を含むものは、(作品番号 25、27、47、48、62、67、71、70、120、126、135)のみである。亜鉛華は新しく開発された顔料であり、その使用年次が注目される。1850 年代に実用化されたという(絵画材料事典 pp.174-175)。白亜(炭酸カルシウム)とされている場合は白亜と表記した。炭酸カルシウムと表記されている場合はそのまま表記した。バライト(重晶石、硫酸バリウム)とされている場合はバライトと表記した。石膏(硫酸カルシウム)とされている場合は石膏と表記した

層数は、既述したように E-J 及び、19 W&N は多層塗りである。一方で、F-I 型は 1~2 層塗りである。

織種は、調査されたものについては、大部分は平織りである。平織りとは、縦糸と横糸が交互に交差するものである(絵画材料事典 p.231)。例外的なものは、(作品番号 70、126、127)のみである。(作品番号 126、127)は既述したように高橋由一の支持体として例外的である。支持体の素材は木綿であり、織り方も縹子織である。縹子(朱子)織は、経糸・緯糸が各 5 本以上で 1 完全組織を作り、交錯する点が一定間隔で、かつ隣り合わない組織であるという。

http://www.jpo.go.jp/shiryousonota/hyoujun_gijutsu/traditional/1-2-2.pdf(2007 年 11 月 15 日)。平綾織と同義かどうかは不明である。地塗り層も一層であり、国内で自製又は自製販売された支持体であらう。

経緯数は、経 1cm×1cm あたりの』織糸の本数である。したがって、本数が多いほど細い折糸が用いられていることになる。

東京藝術大学収蔵作品を中心とした支持体、地塗り層のデータ 高橋由一を除く

作品番号	資料出典	作者	作品名	制作年 明治	成分分析	層数	織種	経緯数		媒剤の推定	特記事項 素材、制作地等	所蔵
								経	緯			
1	S18	百武兼行	耕作	11頃	E-J	3					ロンドン	佐賀県立美術館
2	S19	百武兼行	母と子	11	E-J	3					ロンドン	有田工業高校
3	S20	百武兼行	サドルバック山	11	E-J	3					ロンドン	個人蔵
4	S21	百武兼行	バーナート城下図	11	E-J	3					ロンドン	佐賀県立美術館
5	M6S 22	百武兼行	ブルガリアの女	12	FI 鉛白、炭酸カルシウム	2	平織	18	15		亜麻布 パリ	東京藝術大学
6	S23	百武兼行	マンドリンを持つ少女	12	FI	1					パリ	佐賀県立美術館
7	S24	百武兼行	老婦人	12頃	FI	2					パリ	佐賀県立美術館
8	M7S 25	百武兼行	イタリア風俗	13	FI 鉛白主成分、少量の白亜と石膏	1	平織	28	26		亜麻布 ローマ	東京藝術大学
9	S26	百武兼行	タンバリンを持つ少女	14頃	FI	1					ローマ	個人蔵
10	S28	百武兼行	裸婦立像	14頃	FI	1					ローマ	神奈川県立博物館
11	S29	百武兼行	少女像	14頃	E-J	1					ローマ	個人蔵
12	S27	百武兼行	臥裸婦	14	FI	1					ローマ	石橋美術館
13	S30	百武兼行	裸婦立像		FI	2						個人蔵
14	S31	百武兼行	西洋夫人像	不明	FI	2						個人蔵
15	S32	百武兼行	鍋島置大	15	FI	1					ローマ	佐賀県立美術館
16	M8	国沢新九郎	西洋夫人像	不明	19W&N類以 鉛白と白亜		平織	14 5	15		亜麻布	東京藝術大学

東京藝術大学収蔵作品を中心とした支持体、地塗り層のデータ 高橋由一を除く

作品番号	資料出典	作者	作品名	制作年 明治	成分分析	層数	織種	経緯数		媒剤の推定	特記事項 素材、制作地等	所蔵
								経	緯			
17	M9	国沢新九郎	自画像	不明	19W&N類似 鉛白と白亜		平織	14	15.5		亜麻布 ROWNEY のスタンブ	東京藝術大学
18	M10/ S35	国沢新九郎	静物	不明	FI/19W&N類似 鉛白と炭酸カルシウム (白亜)	1	平織	14	15		亜麻布 ROWNEY のスタンブ	東京藝術大学
19	M11	山本芳翠	ベルサイユ公園	11~ 15	上層、鉛白、パライト 下層、鉛白、白亜						厚紙 フランス製の可能性	東京藝術大学
20	M12	山本芳翠	西洋夫人像	15	鉛白と白亜						板	東京藝術大学
21	S44	山本芳翠	若い娘の肖像	16頃	FI	1					パリ	岐阜県美術館
22	M13	山本芳翠	静物	11~ 20	鉛白主成分、少量の白 亜		平織	30	31		亜麻布か 亜麻布による裏打ち	東京藝術大学
23	M14	山本芳翠	葡萄酒		酸化鉄系の褐色		平織	14.5	14		亜麻布	東京藝術大学
24	M15	山本芳翠	合田清像	19	下層、鉛白と白亜 上層鉛白、パライト、 酸化鉄系の褐色層		平織	16	18		亜麻布	東京藝術大学
25	M16/ S45	山本芳翠	自画像	25	主成分亜鉛華、白亜 少量鉛白	1	平織	17	18	油性か	亜麻布	東京藝術大学
26	M17	山本芳翠	猛虎一声	26	19W&N 炭酸カルシウム、白亜 主成分 下層白亜が多い、 上層鉛白が多い	2	平織	15	14		亜麻布	東京藝術大学
27	M18	山本芳翠	花籃栗		亜鉛華と白出る近天 年土		平織	24.5	29.5	油性か	亜麻布	東京藝術大学

東京藝術大学収蔵作品を中心とした支持体、地塗り層のデータ 高橋由一を除く

作品 番号	資料出 典	作者	作品名	制作 年 明治	成分分析	層 数	織 種	経緯数		媒 剤 の 推 定	特記事項 素材、制作地 等	所蔵
								経	緯			
28	M19	山本芳 翠	婦人像		19W&N 白亜、鉛白成分 下層白亜が多い、 上層鉛白が多い	2	平 織	14	14		亜麻布	東京藝術大学
29	S46	山本芳 翠	福地源一 郎像		E-J	3						岐阜県美術館 蔵
30	M20	川村清 雄	洗濯婦		地塗りなし						板 膠引き	東京藝術大学
31	S39	川村清 雄	大久保一 翁像	21	E-J	3						個人蔵
32	M21/S 1	五姓田 義松	自画像(13 歳)	元	E-J/19W&N 鉛白及び炭酸カル シウム	2		14	145	油 性 か	ワグマンの 自画像と同一 キャンバス 横兵	東京藝術大学
33	M22	五姓田 義松	婦人像	元	地塗りなし						洋紙	東京藝術大学
34	M23	五姓田 義松	婦人像	4	白亜又は珪粉		平 織	15	15	水 性 か	亜麻布	東京藝術大学
35	M24	五姓田 義松	父芳柳像	5	19W&N 鉛白と白亜		平 織	14	15		亜麻布	東京藝術大学
36	M25	五姓田 義松	婦人像	6~ 7	下層 白亜 上層 鉛白、バライ ト	3					厚紙、英国製の 既製品 REEVES & SONS スタン プ	東京藝術大学
37	M26	五姓田 義松	婦人像(横 浜婦人)		19W&N 鉛白と白亜		平 織	14	16		亜麻布	東京藝術大学
38	M27	五姓田 義松	雪景		地塗りなし						洋紙の板紙、礬 水の刷毛塗り	東京藝術大学
39	M28	五姓田 義松	川の夕景		地塗りなし						洋紙、膠引きの 可能性	東京藝術大学

東京藝術大学収蔵作品を中心とした支持体、地塗り層のデータ 高橋由一を除く

作品 番号	資料出 典	作者	作品名	制作 年 明治	成分分析	層 数	織 種	経緯数		媒剤 の推 定	特記事項 素材、制作 地等	所蔵
								経	緯			
40	M29	五姓田 義松	水神の春		鉛白、バライト主成分 少量白亜					水性 か	紙、厚い白色 地塗り 刷毛跡	東京藝術大学
41	M30	五姓田 義松	夕の風景	留 学 前 か	上層は鉛白とバライト 下層は鉛白と白亜						洋紙	東京藝術大学
42	M31	五姓田 義松	朝の風景		鉛白、バライト主成分 少量の白亜						洋紙 和紙を 両面貼り付 け 強い 膠りき、 吸収性は少 ない	東京藝術大学
43	M32	五姓田 義松	雨模様		白亜、胡粉か					水性 か	洋紙 油を含むと 黄色みを帯 びる	東京藝術大学
44	M33	五姓田 義松	海岸(神奈 川台)	留 学 前 か	地塗りなし						洋紙 膠りき の可能性	東京藝術大学
45	M34	五姓田 義松	肖像		地塗りなし						洋紙か	東京藝術大学
46	M35S 2	五姓田 義松	自画像	10	E-J/19W&N 上層は鉛白主成分 下層は白亜主成分	3	平 織	14	15		亜麻布 東京	東京藝術大学
47	M36	五姓田 義松	明治帝御 眺望図	11	亜鉛華					油性 か	厚紙 国産既 製品 伊藤彩 料繪製	東京藝術大学
48	M37	五姓田 義松	三州豊橋	11	亜鉛華	1					厚紙 国産既 製品 伊藤彩 料繪製	東京藝術大学
49	M38S 3	五姓田 義松	横浜亀橋 通	12	E-J/19W&N 上層は鉛白主成分 下層は白亜主成分		平 織	15	15		亜麻布 東京	東京藝術大学

東京藝術大学収蔵作品を中心とした支持体、地塗り層のデータ 高橋由一を除く

作品番号	資料出典	作者	作品名	制作年 明治	成分分析	層数	織種	経緯数		媒剤の推定	特記事項 素材、制作地等	所蔵
								経	緯			
50	M39	五姓田義松	五姓田芳柳像	13	19W&N 鉛白と白亜		平織	14	13		亜麻布	東京藝術大学
51	M40	五姓田義松	西洋婦人像	14	鉛白主成分 白亜とパライト少量	31	平織	14	16		亜麻布 パリ時代	東京藝術大学
52	M41	五姓田義松	伊太利人半身像	14	鉛白主成分 白亜とパライト少量		平織	13.5	18.5		亜麻布 パリの業者印 木杵伊藤彩料 舗製紙印	東京藝術大学
53	M42S 4	五姓田義松	男子半身像	14	FI 下層鉛白 上層褐色層	1/2	平織	16	18		亜麻布 パリ	東京藝術大学
54	M43S 5	五姓田義松	男裸体	14	FI 上層骨炭、鉛白、褐色 中層鉛白と褐色 下層鉛白主成分	3	平織	14	17		亜麻布 パリ	東京藝術大学
55	M44S 6	五姓田義松	西洋婦人像	14	FI 鉛白主成分 石膏、白亜、パライト少量	1	平織	22	18		亜麻布 パリ	東京藝術大学
56	M45	五姓田義松	西洋婦人と子供	16 頃	鉛白		平織	15	16		亜麻布	東京藝術大学
57	M46S 7	五姓田義松	操芝居	16	FI 鉛白主成分 炭酸カルシウム、パライト等少量 有色地	1	平織	24	20		亜麻布 パリの業者印 パリ	東京藝術大学
58	M47	五姓田義松	西洋婦人像	16 頃	鉛白主成分 白亜とパライト等少量 有色地		平織	19	16		亜麻布	東京藝術大学
59	M48	五姓田義松	銭湯	晩年か	19W&N 上層鉛白主成分 下層白亜主成分	2	平織	15	16		亜麻布	東京藝術大学

東京藝術大学収蔵作品を中心とした支持体、地塗り層のデータ 高橋由一を除く

作品 番号	資料出 典	作者	作品名	制作 年 明治	成分分析	層 数	織 種	経緯数		媒剤 の推 定	特記事項 素材、制作地 等	所蔵
								経	緯			
60	M49	浅井忠	収穫	23	19W&N 鉛白、白色陶土を含む白 亜、パライト 下層のほうが白亜が多い	2	平 織	16	16		亜麻布	東京藝術大 学
61	M50	小山正 太郎	川上冬 崖像		19W&N 類似 鉛白と白亜		平 織	11.5	11. 5		亜麻布	東京藝術大 学
62	M51	小山正 太郎	白菊	33	亜鉛華、鉛白、パライト		平 織	16	13		亜麻布 木枠にパリの 業者印	東京藝術大 学
63	M52	印 藤 真楯	美人弾 琴図		亜鉛華		平 織	31	30		亜麻布	東京藝術大 学
64	M53	松岡寿	少女	10	鉛白主成分 炭酸カルシウム、パライ ト等						洋紙 布の裏打ち	東京藝術大 学
65	M54	松岡寿	闘牛士	14	地塗りなし						桎目板 膠引 きか	東京藝術大 学
66	S37	松岡寿	ピエト ロ・ミッ カ半身 像	14	FI	1					ローマ	岡山県立美 術館
67	M55	松岡寿	凱旋門	15	厚塗り 石膏と亜鉛華の混合物		平 織	22	21	水 性 か	留学中の作品 亜麻布 亜鉛華地塗りの古 い例	東京藝術大 学
68	M56	原田直 次郎	靴屋の 阿爺	19	19W&N 類似 上層は鉛白主成分 下層は炭酸カルシウム主 成分	2	平 織	15	15		亜麻布	東京藝術大 学
69	M57	原田直 次郎	老人	19	亜鉛華と白亜 上層に油性鉛白	2	平 織	17	16	水 性 か	亜麻布 南ドイツの地 処方	東京藝術大 学

東京藝術大学収蔵作品を中心とした支持体、地塗り層のデータ 高橋由一を除く

作品番号	資料出典	作者	作品名	制作年 明治	成分分析	層数	織種	経緯数		媒剤の推定	特記事項 素材、制作地等	所蔵
								経	緯			
70	M58	原田直次郎	エクステル像	19	19W&N類 鉛白と白亜		二糸平織	12	85		亜麻布	東京藝術大学
71	S41	原田直次郎	騎龍観音	22	亜鉛華等	2					東京	護国寺蔵
72	M59	原田直次郎	高橋由一像	26	鉛白とホワイト	2	平織	14	12		亜麻布	東京藝術大学
73	M60	原田直次郎	風景	30	19W&N 鉛白と白色陶土を含む白亜	2	平織	17	8 (双糸)		亜麻布	東京藝術大学
74	M61	原田直次郎	風景		地塗りなし						板目板	東京藝術大学
75	M62	原無公	老婦人	39	19W&N 上層:鉛白主成分 下層:白亜主成分	2	平織	11	13		亜麻布 w. nスタンプ	東京藝術大学
76	M63	原無公	ヴァイオリンを弾く男	39	19W&N 上層:鉛白主成分 下層:白亜主成分	2	平織	15	15		亜麻布 w. nスタンプ	東京藝術大学
77	M64	原無公	裸婦	39	19W&N 鉛白、白色陶土を含む白亜	2	平織	16	24		亜麻布 w. nスタンプ	東京藝術大学
78	M65	原無公	横向婦人	40	19W&N 鉛白、白色陶土を含む白亜、ホワイト 下層:白亜が多い 上層:鉛白が多い	2	平織	12	11		亜麻布	東京藝術大学
79	M66	フォンタネージ	牧牛		地塗りなし						手鹿き紙	東京藝術大学
80	M67	フォンタネージ	木立		白亜	1					厚紙 膠の絶縁層か	東京藝術大学

東京藝術大学収蔵作品を中心とした支持体、地塗り層のデータ 高橋由一を除く

作品 番号	資料出 典	作者	作品名	制作年 明治	成分分析	層 数	織 種	経緯数		媒 剤 の 推 定	特記事項 素材、制作 地等	所蔵
								経	緯			
81	M68	ワグ マン	自画像		19W&N 鉛白及び炭酸カルシウム		平 織	15	14		亜麻布 経緯が絡む ように織ら れている	東京藝術大 学
82	M69S 42	ワグ マン	少女	24	E-J/19W&N類以 鉛白、白色陶土を含む白 亜	1	平 織	15	15		亜麻布 横兵	東京藝術大 学
83	M70	ワグ マン	芳柳像		鉛白と白亜	2 か				水 性 か	紙 機械鹿きの 水彩紙か	東京藝術大 学
84	M71	ワグ マン	薔薇		鉛白、白色陶土を含む白 亜	1					厚紙	東京藝術大 学
85	S36	床次正 精	三田製 紙所	13	E-J	1					東京	紙の博物館 蔵
86	S38	横山松 三郎	自画像	17 頃	E-J	3						個人蔵
87	S40	渡辺幽 香	五姓田 芳柳像	22	E-J	3					東京	東京藝術大 学
88	S33	サン・ジ ヨバン ニ	牛		FI	1						個人蔵
89	S34	サン・ジ ヨバン ニ	山尾忠 次郎像		FI	2						個人蔵
90	S43	山下り ん	ヤコブ 像	25 ～ 26	FI	2					サントペ テルブルク	笠間日動美 術館

高橋由一の支持体、地塗り層のデータ

作品番号	資料出典	作品名	制作年 明治	成分分析	層数	織種	経緯数		媒剤の推定	特記事項 素材、制作地	所蔵
							経	緯			
91	M1/T41	美人(花魁)	5	19W&N	2	平織	14	15	油性	亜麻布	東京藝術大学
92	T39	旧江戸城乃 図	5			平織	17	17		亜麻布	東京国立博物館
93	T40	真崎稻荷社 ノ景	6								福井市立郷土歴史博物館
94	T27	真崎の渡	6~ 7	鉛白主成分	1	平織	16	15	油性	亜麻布	町立久万美術館
95	T29	相州江乃島 図	6~ 8	鉛白主成分	1	平織	19	16	油性	亜麻布	個人蔵
96	T28	墨水桜花	7			平織	14	15		亜麻布	個人蔵
97	T1	読本と草紙	7~ 8	19W&N	1	平織	14.5	15	油性		金刀比羅宮
98	T2/S9	巻布	8~ 9	E-J/19W& N	3/2	平織	14	15	油性	東京	金刀比羅宮
99	T3	左官	8~ 9	19W&N	3	平織	14.5	15.5	油性		金刀比羅宮
100	T4/S10	墨田堤の雪 (墨提雪)	9	F-I 鉛白主成分	1	平織	14	15	油性	地塗り厚 塗り 東京	金刀比羅宮
101	T5	海岸(江島兜瀨)	9~ 10	19W&N	3	平織	15	15			金刀比羅宮
102	T30	江乃島風景	9~ 10	鉛白主成分	1	平織	19.5	18.5		亜麻布	神奈川県立近代美術館
103	T7/S11	墨提桜花	10	E-J/19W& N	3/3	平織	13.5	14.5	油性	地塗り塗り むら 東京	金刀比羅宮
104	T9	百万塔と 鐵袖図	10	19W&N	3	平織	14	15	油性		金刀比羅宮

高橋由一の支持体、地塗り層のデータ

作品 番号	資料出典	作品名	制作 年 明治	成分分析	層 数	織 種	経緯数		媒剤 の推 定	特記事 項 素材、 制作地	所蔵
							経	緯			
105	T10	豆腐	10	19W&N	2	平織	13.5	14.5			金刀比羅宮
106	T11	なまり	10	19W&N	2	平織	14	15	油性		金刀比羅宮
107	T12	芝浦夕陽	10	E-J/19W&N	3/3	平織	15	15	油性		金刀比羅宮
108	M2/T42	鮭	10							洋紙 膠層の 可能性	東京藝術大学
109	T6	鱈梅花	10	鉛白主成分 下層に胡粉 の層	2	平織	不明	不明	油性	地塗り 厚塗り 地塗り 塗りむら	金刀比羅宮
110	T8	本牧海岸	10	鉛白主成分 下層に胡粉 の層	2	平織	不明	不明	油性	地塗り 厚塗り	金刀比羅宮
111	T31	人吉戦火図	10	鉛白と白亜 か	3	平織	15	15	油性	亜麻布	個人蔵
112	T13	愛宕望嶽	10 ~ 11	E-J/19W&N	3/3	平織	14.5	14.5	油性		金刀比羅宮
113	T14	田子富士	10 ~ 11	19W&N	3	平織	14	14	油性		金刀比羅宮
114	T15/S12	牧ヶ原望嶽	11	E-J/19W&N	3/2	平織	14	15	油性	東京	金刀比羅宮
115	T16	洲崎	11	19W&N	3	平織	13.5	14.5	油性		金刀比羅宮
116	T18	浅草遠望 (関谷の里)	11	19W&N	2	平織	14	14.5	油性		金刀比羅宮

高橋由一の支持体、地塗り層のデータ

作品番号	資料出典	作品名	制作年 明治	成分分析	層数	織種	経緯数		媒剤の推定	特記事項 素材、制作地	所蔵
							経	緯			
117	T32	中州月夜の図	11	19W&N	3	平織	14	15	油性	亜麻布	個人蔵
118	T20/S8	二見ヶ浦	11	E-J/19W&N	2/3	平織	14	15.5	油性	東京	金刀比羅宮
119	T17	屋上月	11	鉛白主成分	1				水性	合板に紙	金刀比羅宮
120	T19	懸真 <small>くま</small>	11	亜鉛華	1				油性	競 <small>きょうしょうがし</small> 賞画帋 洋紙に布の裏打ち	金刀比羅宮
121	T21	桜花図	12	19W&N	3	平織	14.5	15	油性		金刀比羅宮
122	T22	鯛(海魚図)	12	19W&N	3	平織	14	14.5	油性		金刀比羅宮
123	T24	貝図1(左端)	12	E-J/19W&N	3/3	平織	14	14.5	油性		金刀比羅宮
124	T23	江乃島図	11 ~ 13	鉛白主成分	1				水性	洋紙、和紙の裏打ち 競 <small>きょうしょうがし</small> 賞画帋の可能性	金刀比羅宮
125	T35/S16	松島図	14	E-J	4 /3	平織	14	15		亜麻布 東京	宮城県美術館
126	T33/S14	宮城県庁門前図	14	白亜、亜鉛華	1	繻子	20.5	23		木綿 東京	宮城県美術館
127	T34/S15	松島五大堂図	14	白亜	1	繻子	20.5	23		木綿 東京	宮城県美術館
128	Y64	琴 <small>はな</small> 慶 <small>けい</small> 看 <small>かん</small> 常 <small>じょう</small> 像 <small>ざう</small>	14								金刀比羅宮
129	T26	月下隅田川(右)	14	鉛白主成分	1	平織	10	11.5	油性	地塗り 厚塗り	金刀比羅宮

高橋由一の支持体、地塗り層のデータ

作品番号	資料出典	作品名	制作年 明治	成分分析	層数	織種	経緯数		媒剤の推定	特記事項 素材、制作地	所蔵
							経	緯			
130	T36/S13	栗子山 隧道 <small>トンネル</small> (西洞門小)	14	F-I 鉛白とバラ イト	4	平織	12	13		亜麻布 山形	西那須野郷 土資料館
131	T25	琴平山遠望	14	酸化鉄系茶 褐色の有色 地	1				水性	板に薄手 の綿布	金刀比羅宮
132	T37/S17	鑿道 <small>ほくそう</small> 八景 <small>はっけい</small> (1)	18	F-I 鉛白	1	平織	23	36	水性	絹布に和 紙の裏打 ち、 ボール紙 の台紙に 袋張り 東京	西那須野町 郷土資料館
133	M3/Y3	司馬江漢像	20	19W&N	2	平織	15	15		亜麻布 w. n ス タンプ	東京藝術大 学
134	M4/T38	日本武尊	24	19W&N	3	平織	14.5	15		亜麻布 既成キャ ンバス	東京藝術大 学
135	M5	海岸	不明	亜鉛華	1	平織	21	23	油性	亜麻布 麻袋利用 手製キャ ンバス、 地塗り	東京藝術大 学